

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その11

今号では『本事業の成果の検証方法としての学校評価』について紹介させていただきます。

本校では12～1月に学校評価を実施し、集約を終えました。今年度の教育活動の成果や来年度に向けての課題は何であるのかを把握し、よりよい教育活動の方向性を探っていくことは、「本事業のより確実な推進」のためにも大切なことであると考えています。内部評価（教職員）の結果については、以下のようになりました。

※評価につきましては、4段階評価で実施しました。

A 重点目標		評価
○ 共通理解・実践		
1	重点目標の共通理解が図られ、達成のための取組を実践しているか。	3.1
2	学校の組織力（学校力）が向上している実感はあるか。	3.1
3	全体計画・年間計画に基づいた実践ができていますか。	3.0
B 各部の重点実践事項		
○ 研究部（詳細は学校経営計画参照）		
4	・協同的な学びが見える授業づくり ・効果的な言語活動等、指導方法の工夫	3.0
○ 学習部（詳細は学校経営計画参照）		
5	・学習スタンダード7の徹底 ・日常的なノート指導	2.9
○ 教務部（詳細は学校経営計画参照）		
6	・Q-Uの実施と児童理解 ・キャリア教育の学習計画づくり	2.8
○ 生活部（詳細は学校経営計画参照）		
7	・生活スタンダード7の徹底 ・自発的・主体的な実践活動の工夫	2.8
○ 保体部（詳細は学校経営計画参照）		
8	・生活習慣の改善に向けた取組 ・体力向上プランの実践化	2.9
C 指導体制		
○ 組織づくり		
9	学年・学級相互の連携が円滑で、学校全体として意欲や力を発揮できる組織になっているか。	3.1
10	職員会議で話し合われたことが教育活動や学校運営に生かされているか。	3.3
11	分掌ごとの話し合いができており、組織が機能しているか。	2.8
○ 危機管理体制		
12	安全点検は計画的に実施し、行き届いた改善がなされているか。	2.9
13	事件・災害・生徒指導に対し、全教職員が意思統一を図り、適切な対応ができていますか。	2.9
D 教育環境		
○ 環境整備		
14	教室や廊下等、教育環境は適切に整備されているか。	2.9
15	学級園、校地内は美しく整備されているか。	3.1
○ 施設設備		
16	施設・設備を教育の場で、よく活用できているか。	2.9
17	校地・校舎の維持管理について、教職員が協力して実践しているか。	3.3
E 研修		
○ 校内研修		
18	研修主題に沿った校内研修は計画的にできていますか。	2.9
19	校内研修の成果は、日常の教育実践の場に生かされているか。	3.3
20	教職員が共に高め合う研修を推進するために意見交換はよくできていますか。	3.1
21	授業研究等を通して、指導力は向上しているか。	2.8
F 開かれた学校づくり		
○ 情報の発信		
22	保護者や地域への情報発信は十分にできたか。	2.7
○ 保護者・地域との連携		
23	近隣小中学校との連携を図ることはできたか。	2.7
24	保護者や地域の人々と接する機会を多くもつとともに意見を十分聞いているか。	3.1
25	地域の施設・人材や地域教材の活用はできたか。	3.0

G 学力の向上		
○ 基礎・基本の定着		
26	日常的な学習スタンダードの指導と教師スタンダードの実践に努めたか。	2.8
27	基礎的・基本的な内容の習熟・定着は図れたか。	2.8
28	言語活動を効果的に学習過程に取り入れる等、日常授業の改善に努めたか。	2.9
29	児童の理解度に応じた指導に努めたか（TTとの連携）。	2.7
30	指導過程に「学び合い」のある授業づくりに努めたか。	2.8
31	指導に生かすために、計画的な評価に努めたか。	3.1
○ 振り返り学習・発展的学習の推進		
32	朝学習や放課後学習の時間を有効に活用できたか。	3.0
33	備品等の教材教具は、効果的に活用できたか。	3.0
34	家庭学習等、学習の習慣化は図れたか。	2.8

H 心の教育の充実		
○ 道徳教育の推進		
35	道徳の時間の充実に努めたか。	2.5
36	キャリア教育を意識し、他教科等との関連を図った道徳授業の工夫ができたか。	2.3
37	学校や家庭での生活全般を通して、「私たちの道徳」を活用するように働きかけたか。	2.3
○ 特別活動の推進		
38	児童が主体的に活動するように努めたか。	2.7
39	クラブ・委員会活動では、児童の意欲を高め、楽しく活動できるよう指導に努めたか。	3.0
○ 生徒指導の充実		
40	生活スタンダードの指導の充実に努めたか。	3.0
41	いじめ・不登校・問題行動等の未然防止に努めたか。	2.9
42	いじめ・不登校・問題行動等への対応は速やかに行えたか。	3.0
43	児童理解やQ-Uの分析結果を生かして、個に応じたよりよい学級づくりに努めたか。	2.8
44	安全指導の充実は図れたか。	2.8

I 健康教育の充実		
○ 体育学習の充実		
45	「どさん子元気アップチャレンジ」の活用等、運動量を確保し、めあてをもった学習がされたか。	2.5
46	児童が主体的に運動に親しむように働きかけたか。	2.5
○ 保健指導の充実		
47	生活リズムチェックシートの活用等、自分の健康について意識させるよう指導したか。	2.9
48	養護教諭と連携を図りながら、保健指導の充実が図られたか。	3.4
○ 給食・清掃指導の充実		
49	栄養・偏食・マナー等、食に関する指導の充実が図られたか。	2.6
50	清掃時間の指導の充実は図れたか。	2.9

J その他		
○ 特別支援教育の充実		
51	個別の指導計画・個別の教育支援計画の見直し・改善・指導への活用に努めたか。	2.7
○ 子どもと向き合う時間の確保		
52	事務職員への業務の移行により、子どもと向き合う時間の確保が図られたか。	3.1
○ 若手教員への指導・助言		
53	中堅以上教員による初任者に対する学習指導や学級経営等に関わる指導・助言がされているか。	3.1
○ 教育環境の整備（言語環境）		
55	児童間の対人関係等に配慮し、安定した生活が送れるよう言語環境づくりに努めたか。	2.8

教職員による内部評価及び保護者アンケートの結果を踏まえ、学校評価会議を行い、成果・課題・改善策について話し合いました。学校としては、今年度の学校評価の結果をさらなる「学校への期待感」と捉え、決して奢ることなく、次年度の学校改善につなげていきたいと考えています。